



ハトダヨ
2022年
3月号

函館市中央図書館

編集・発行

函館市中央図書館 指定管理者
図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体

TEL 35-5500 FAX 35-5525

函館市中央図書館だより

第70号 令和4年3月1日 発行

予約 ランキング

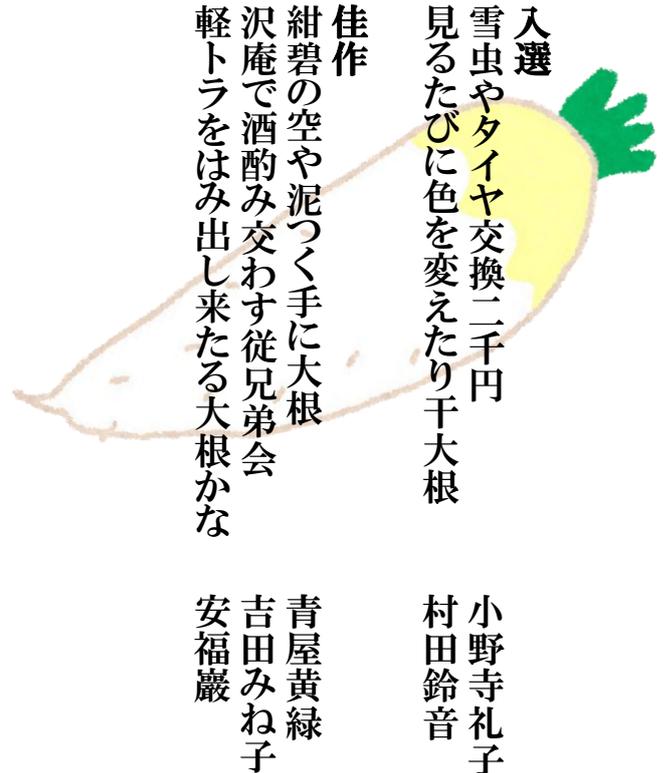
予約数の多い本ランキングを紹介
します。こちらを参考に読みたい
本を探すのも一つの方法です。

＼令和3年2月20日現在、予約回数の多かった本をご案内しています／

- | | | |
|----|-------------------|----------|
| 1 | 白鳥とコウモリ | 東野 圭吾／著 |
| 2 | 透明な螺旋 | 東野 圭吾／著 |
| 3 | 52ヘルツのクジラたち | 町田 そのこ／著 |
| 4 | 北緯43度の
コールドケース | 伏尾 美紀／著 |
| 5 | ミカエルの鼓動 | 柚月 裕子／著 |
| 6 | 琥珀の夏 | 辻村 深月／著 |
| 7 | 探花 | 今野 敏／著 |
| 8 | 硝子の塔の殺人 | 知念 実希人／著 |
| 9 | 李王家の縁談 | 林 真理子／著 |
| 10 | 星を掬う | 町田 そのこ／著 |

図書館俳句ポスト受賞者

11月俳句ポストへ応募された中から選ばれた作品です。お題は大根(だいこん)。



入選
雪虫やタイヤ交換二千円
見るたびに色を変えたり千大根

佳作
紺碧の空や泥つく手に大根
沢庵で酒酌み交わす従兄弟会
軽トラをはみ出し来たる大根かな

小野寺礼子
村田鈴音
青屋黄緑
吉田みね子
安福巖

ホッフ! ステッフ! スプリング!

開架展示では、「春」を特集します!!

2021年3月4日(金)～3月29日(火)



長い冬が終わり、待ちに待った春はもうすぐそこです。明るく楽しいイメージのある春ですが、親しい人との別れを悲しく感じたり、新しい場所で新しいことを始めることに不安を感じたいする方も多いのではないのでしょうか。今回の展示では、明るく楽しい気分、前向きな気持ちになれるような本、CDをご紹介します。

みなさんのもとに明るい春がおとずれ
ますように。

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

棚：A16~A18
請求記号：491.3 ｷﾀ

タイトル：「スゴイカラダ」

著者：北村昌陽 出版社：日経BP社 (2014年4月)

私たちのカラダって本当はスゴイんです。誰からも教えられたわけではないのに、自然とあらゆることに対応できる優れもの。どうして味を感じるの？どうしてあくびがでるの？など、普段無意識に行っている様々な行動にはふか～い意味があることがわかります。目には見えない大仕事をスゴイ機能を使ってこなしている私たちのカラダの世界を冒険してみませんか？

棚：児童7-10
請求記号：Eハセ

タイトル：「教室はまちがうところだ」

絵：長谷川知子 作：蒔田晋治 出版社：子どもの未来社 (2004年5月)

子どもの頃、自分の発言が間違っていたら恥ずかしい、だから手を挙げるのってこわい。そう思った経験はありませんか？この絵本は「まちがうことをおそれちゃいけない。まちがったものをわらっちゃいけない」ということを先生が目線、言葉で、力強く教えてくれます。もうすぐ入学、新学期シーズン。いつも以上に緊張する子もいるなかで、まずは先生や保護者の方に読んでほしい、そして多くの子どもたちに「まちがっても大丈夫！」と伝わったらいいなと思う一冊です。

棚：閉架書庫-2
請求記号：929 ｱﾐ

タイトル：「ぼくによろしく」

著者：ガリラ・ロンフェデル・アミット 出版社：さ・え・ら書房 (2006年4月)

父親が服役囚、母親は別の人と再婚して家を出た。少年は祖母に引き取られたが素行が悪すぎて手に負えず里子に出された。新しい環境の中で少年はどんな風に育つのだろう？

この児童小説は、何人もの里子を育てた著者の実体験から書かれたものです。世間から見るととんでもない実親でも、少年は決して嫌いにはなりません。里親に勧められ日々書き始めた日記ですが、本音を綴るうちにそれは少年にとって大切な存在になります。実親と里親。さて、少年が本当に見つけたものとは？少年を取り巻く様々な立場の登場人物たちが生き生きと描かれ彼らの気持ちも想像しては繰り返し読んでしまいました。

館長随想 (七〇)



私は3月31日で定年退職を迎えます。「ハトダヨ」館長随想を69回書いてきましたが、私が書くのは今回で最後になります。この「ハトダヨ」は、正式名称「函館市中央図書館だより」から4文字を取った愛称で、平成二十七年に発刊開始し翌年から毎月出しています。

昭和11月4年「市立函館図書館多与利」が発行され、当時の岡田健蔵館長は亡くなる2か月前の19年10月まで毎号書かれていました。素晴らしい名文で、図書館のあり方を説いています。私は全く比肩できるものではありませんが、館長が情報発信する必要があるのは岡田館長の時代と全く変わっていません。「図書館多与利」は、岡田館長の没後は、昭和20年から敗戦後という大変な時期を象徴するように、紙は質の悪い所謂藁半紙となり、発行も散発的になりました。情報発信にはSNSという時代ですが、私共が運営を任されてから、半世紀ぶりに紙による図書館だよりを復活しました。

本も電子書籍が現れ、図書館でも導入する所が増えています。将来的には電子媒体の導入は避けられないでしょう。今は過渡期なのか、出版社は電子書籍の図書館への販売に後ろ向きで、手に入られる本(コンテンツ)は限られています。しかし、電子書籍でしか発行されないものが出てきていますし、過去の名作は紙から電子に置き換えが進んでいます。図書館では電子書籍も入れなければ、本の収集が途切れることになります。

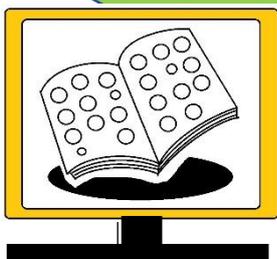
それならば紙の本はなくなるでしょうか。函館の図書館には約80万冊の本があります。この全てを永遠に保存する必要はないでしょうか。少なくとも半分以上は持ち続けるべきです。何故なら、電子化されない本は多いでしょうし、電子化されても永く保存できないからです。昔の「図書館多与利」は藁半紙版のものも含めて今でも手に取って読むことができます。しかしこれが電子媒体だったらどうでしょうか。私は前任地の図書館で、かなり多くの電子資料を買いそろえました。20年前です。CD・ROMで、Windows 95対応ソフトでしたから、今のパソコンでは読むことが出来なくなり、全て廃棄しました。

人類の知の保存には紙の本はとも適していません。図書館には江戸時代の本がありますが、二百年たっても当時のままの状態で読むことができます。日本には平安時代、鎌倉時代の本が残っていますが、保存状態が悪くない限り読むには支障がありません。電子媒体が、数百年後、千年後になって解読できるとは思えません。紙の本がなくなれば、今の時代を後世に伝えるのが難しくなります。

紙の本は必要だと私は考えますが、本を出すというのは産業です。出版社、印刷会社、製本会社、流通会社、販売会社があつて私たちは本を手に入れることができます。現在日本では百万点を超える本が出ています。この99パーセントが電子書籍だけになり、紙の本が1万点だつたとしても、99パーセントの仕事がなくなってしまうから、本の産業は維持できず本を作り続けることは困難です。この世から本をなくさないためにも、皆さん本を買ってください、そして本を保存する図書館をどうか利用してください。

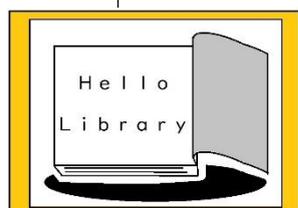
7年間にわたつて館長を勤めることができたのは、図書館を利用する皆さんの支えがあつたからです。本当にありがとうございます。

い ろ い ろ あ る よ
本 の か た ち



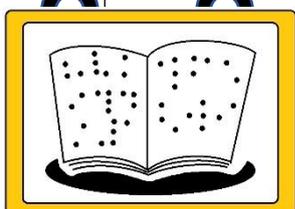
【 大活字本 】

文章の文字が大きく作られている本。字がとっても見やすいので、小さい字や細かい字が読みづらい方におすすめです。



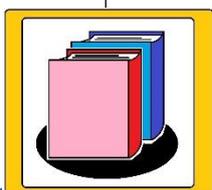
【 外国語作品 】

文章が英語や韓国語など、外国で書かれている本です。海外から留学や旅行で来日している人も、母国語で本を楽しめます。もちろん外国語の勉強のため、海外小説を原文のまま読んでみようなんて楽しみ方も。



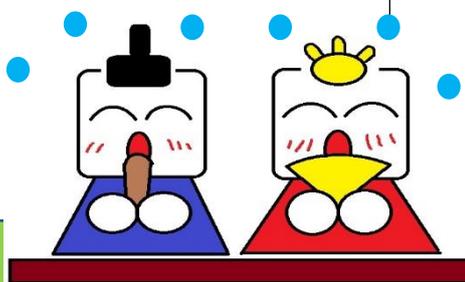
【 点字本 】

目が不自由な方、視覚による認識が難しい方にご利用いただきたい本。紙面を凸凹した点その点の配置で文字を表現しています。点を指でなぞることで文章を読んでいます。



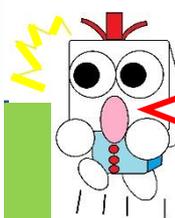
【 文庫本 】

本が小さい作りになっているので、旅行やちょっとしたお出かけのおともにお勧め。小さいけれどボリュームたっぷり。



【 仕掛け絵本 】

本を開くと、絵が飛び出したり、動いたり、仕掛けが満載。ページが開くのが楽しみな絵本。



本から絵が飛び出した！